

出前授業と工場見学に参加して頂きました

— 高松市立鬼無小学校の皆様 —

高松市立鬼無小学校 第4学年61名を対象に、出前授業と工場見学を行いました。
同校へは3年前より、高松市、鬼無地区衛生組合と合同で出前授業をさせて頂いていますが、今回は工場見学もして頂きました。

9月30日に実施した出前授業では、工場見学の予習を兼ねて3Rを中心にお話ししました。

そして、授業の最後には問題を出しました。

『①缶・ビン・ペットボトルの日に出されたもの
②プラスチック（容器包装）の日に**出されたもの**
すべてがリサイクルできるわけではありません。
それは何故でしょうか？』 皆さんはわかりますか？



10月17日の工場見学では、スチール缶を（磁石を使った）装置で選別する様子や、ペットボトルを手作業で選別する様子を見て頂きました。
見学中に多く聞こえてきた声は「くさい！」でしたが、実はこれが問題のヒントです。
私たちの工場がはじめからくさかったわけではありません。また缶・ビン・ペットボトル・プラスチック（容器包装）自体に、元々においほほはありません。
問題の答えは “出されたものに「違うものが入っているから」” です。
飲み残し・食べ残しが腐って、においの元になっています。また汚れているものは、処理に手間がかかるだけでなく、リサイクル品の品質低下を招くため、リサイクルには向きません。



質問の時間には、「処理できなかった容器包装プラスチックはどうなりますか？」や「スチール缶のプレスはどうやっているのですか？」など、たくさんの質問をして頂きました。
鬼無小学校の皆さん、この度はありがとうございました。資源を指定の収集日に出すだけでなく、不適切なものを混ぜないなど、正しい出し方を守ってください。
こうすることでリサイクル率が向上します。

